

岩屋山 観音たより

情報革命元年

賀春

仏教的思考

(二)



弘法大師空海

情報革命到来の新世纪を迎え、仏教の諸行無常」という文字が語る意味を痛感します。

この意味は「この世にある、すべての事物、事象はたえず移り変わりながらそれと同時に次の調和の関係へ進んでいるともいえるのです。がしかしながら、周囲の条件に差を生じたときは、また移り変わりをするのである」と正に現在は想像を超えた変化ともいいます。

現在のアメリカ力を破壊的創造とか言って過去に創造されたものを一切を破壊するところにあると言われているそうです。

わが国では大学生の学力低下、中学生の理科の学力の低下が大きな教育問題になっております。現在をお手本のない時代、このような時代を「不確実性の時代」といわれ、ある意味では混沌の時代とも言います。が情報革命の中で新しい時代に突入したことも事実です。一方では東洋思想というものがここでもう一度見直され様としていることも事実です。数学とか囲碁等で理解できるように繰り返し、繰り返し、定石や基本の方程式を理解することにより、次に予期しない問題を解くことが出来る。

発行所：和歌山県
海草郡下津町橋本一〇六五
福勝寺内

電話 (073) 494-0311
編集人：本多碩峯

修行僧・同行二人 本多碩峯

即ち芸術等も繰り返し、繰り返し取得することによって必要に応じ創造されること。はじめて潜在意識の活用がなされる。そして、日本人の仏教の背後にある自然観と生命観が見事にそこに養われている。

仏教的思考は正にそうでありました。四国第六番札所安楽寺住職の師匠の畠田秀峰師が「安楽道」に「弘法大師信仰の原点である求聞持法」と日本仏教」と題する掲載の中で、大師さまはみずからの悩みや苦しみを求聞持を操る（御真言を唱える）ことよってのりこえられた。そして、悩みや苦しみを保持つわしたたちに、「お前もやってみなさい。」と説かれていたのである。

なにしろ、弘法大師がわたしたちに説かれていたことを一言いふなら、「御真言を唱えなさい。」という事です。長い経文を覚えることも、むづかしい本を読むこともいらぬ、大切なのは、御真言を唱えることなのである。それでは、浄土真宗を開かれた親鸞上人は、どう説いておられるのでしょうか。「ただ、南無阿弥陀仏の六字の名号を唱えなさい、他のことは一切いらぬ」と説かれています。



親鸞聖人

真理の花たば



汗を出さざれば うまきものを得ず

四国六番安楽寺長老大僧正

畠田禅峰

親鸞上人は、その語録である歎異抄（唯円撰）の中で、「六号の名号にしたのは、文字の読み書きもできない人でも唱えられる」からだと言っておられます。

お大師さまの教えでは、御真言には、虚空蔵菩薩から観音さま、お不動さま、お薬師さまと色々あり、又、虚空蔵菩薩にしても、「ノウボウ、アキヤシャキヤラバヤ、オンアリ、キヤマリポリワカ」と二十三文字もありました。昔の人は、今の人がちがって、ひらがなも読み、書のできない人が多かったのですから、なかなか、二十三文字と覚えることはむづかしかったのだと思います。



虚空蔵菩薩像

明日への装いを提案します！

寝装・和装・洋装・総合繊維卸

株式会社 **マスメン**

代表取締役 増田都司夫

本社

〒640-8376 和歌山市新中通2丁目8

TEL (073)424-4466(代表) FAX (073)436-6508

豊かなまちづくりに参加します！

株式会社 **田淵建築設計事務所**

無限供給の原理に基づく創造！！

代表取締役 木田耕蔵

本社

〒640-8287 和歌山市築港4丁目2-1

TEL(073)431-0261 FAX(073)431-3898

それで、親鸞上人は、「南無阿弥陀仏」だけ、それも六文字のみじかい御文(名号)にされたのです。

又、この親鸞上人お師匠さまに法然上人浄土宗の開祖という方がおられます。この法然上人は、「南無阿弥陀仏」は一区切りが百万遍だと説かれてました。この百万遍は、求聞持の流れであると考えられます。京都では百万遍という地名がのこっており、法然上人の創建された知恩院は別称を「百万遍」といいます。又、多くの僧侶が集まって一つの大きな数珠を操りまわしつづ

「南無阿弥陀仏」の念仏を唱える法会が今でも行われています。これは、わたしは教えの単純化だと思えます。
道元禪師に至っては、この教えの単純化が極みに達したのです。「六字の名号の南無阿弥陀仏」も覚えなくてよいのです。じつと座るだけなのです。道元禪師は、普勧坐禪儀という御本の中で座禪をわざわざ何かを問うたり、修行を借りる必要はない。「わざわざ工夫、努力を用いなくてもよい」と説かれている。じつと座るだけですから、禪宗が一番



道元禪師

楽なわけでは、何にもしなくてよいのですから……。「じつと座るが、なにもしないで座るといふことが、一生懸命仕事をして、ほんとに休み、というのでしばらく座るのであれば楽なんなのですが、何にもしなくてくる日もへる日も坐るといふことにならざるごとくしてしよつ。

これは死ぬほどつらい……。ということになります。せめて「南無阿弥陀仏」でも唱えさせてほしいということにならないうかが？しかかも、この「南無阿弥陀仏」も、「百万遍」なのです。

「私は、お不動さんがよかった」、「わたしは、観音さんが良かった」ということになりかねません。単純化が必ずしも、万人向きとはいえないのです。わたしはここで優劣を論じるつもりはありません。むしろ、「同じだ」と言つことがいいたいのです。そして、「なぜ？」という問いを問わざるを得ないのです。

「なぜ、日本の仏教の御祖師さまがたは、同じことを説かれたのか？」もう少し言わせてもらえらるなら、「なぜ、日本の仏教の御祖師さまがたは、ほとんど意味の分からない短い言葉をくる日も、くる日も、くる日もくりかえし唱える(座る)ということをしたのでしょつか？」

先ず、弘法大師の求聞持の法では、虚空蔵菩薩の御真言をくりかえし、くりかえし唱えるわけでは、この御真言は、「ノウボウ、アキヤシヤキヤラバヤ」に当たる部分は、「虚空蔵菩薩に帰依します。」という意味ですが、「オンアリキヤマリポリソワカ」については、日本に伝わる間に、発音などが変形して、もとの梵語では意味がわからないという事です。又親鸞上人の「南無阿弥陀仏」の「南無」とは「たのむ」という意味で「阿弥陀仏」は梵語で無量寿のこゝ、又弥陀のことであり、たのむものをたすける」という意味があるといふこととです。しかし、何故南無阿弥陀仏だけなのか、何故南無阿弥陀仏以外はだめなのかという問いには、答えるだけの意味はないといわざるを得ません。又日蓮上人の「南無妙法蓮華経」の御題目について、これもこれは、法華経といふお経の表

題であり、法華経のお経を読んだり、また内容を解釈したりするのはなく表題をくりかえしとなえるわけでは、わたしたちが新聞を読む時、表題の「朝日新聞」という文字だけくり返しくり返し読むなどということはないわけで、表題をいくくりかえし読んでその日のニュースはわからないわけでは、何れから道元禪師の座禪に至っては、「何にもしないで座るだけ」なのです。

そして、これらの御真言、念仏、題目、座禪と数珠は、共に深い関係を持っているのです。弘法大師の場合、現在でも御真言を唱えることが最高の貴い修行であり、数珠は信徒の必需品です。法然上人の場合も同様に、御名号を百万遍唱えるために必要です。その弟子の親鸞上人は、法然上人ほど数にこだわらなかつたが、そのままの形で数珠はのこつた。禪宗に至っては、何にも唱えなくて良くなりましたから、数珠の房の部分はなくなつて、百八連の部分だけのこりました。先日禪宗のお坊さんに、なぜ数珠を持つているのですか？とたずねると、「荘厳」ですとこたえて下さつた。「おかざり」といふことなんですね。

それではもついちぢぢ、さきほどの問いにかえります。
「なぜ、日本の仏教の御祖師さまがたは、ほとんど意味のわからない短い言葉をくる日も、くる日も、くりかえし唱える(座る)ということをしたのでしょつか？」

わたしは、この表現方法や言葉はちがつても仏教の教えの大切なキーポイントをおなじくしているといふことだともいえます。そして、この宗旨をこえたキーポイントを知り、説かないと今の時代、特に戦後教育(アメリカ的)をうけて来たものには、御真言にしても念仏、お題目、座禪といったものにしてもらいがわしいものとか迷信、おまじないにすぎないものでなくなつてしまつた。

さて、それでは、この仏教の教えの大切なキーポイントとは何か、なぜ、日本の仏教のお

幸せライフのお手伝い!

総合建設業

株式会社 酒井技建

代表取締役 酒井武義
〒640-0416

和歌山県那賀郡貴志川町長山277-68
TEL(0736)64-6776 FAX(0736)64-8908



皆さんのスーパーみち屋

株式会社

代表取締役 道畑 勇

本 部 和歌山市岩橋729番地の6
TEL (073) 473-4197

松 島 店 和歌山市加納246番地の1
TEL (073) 474-3500

貴志川店 那賀郡貴志川町大字北山517番地
TEL (0736) 64-7020

祖師さまたちは、「短い言葉のくりかえし」を説いたのか？

そして、もう一歩話をすすめて、「それではほとんど意味のわからない、短い言葉がなぜ、貴い言葉、秘密の言葉、ありがたい仏の言葉、わたしたちを悟りに導く言葉なのでしょうが。」

わたしは、「ここに仏教徒が大切に数珠を持つ理由があり、このことがわかっただけでは本当の意味で仏教徒としての自覚ができた、と言えらるのではないかと思います。」御真言、御名号、御題目、座禅、を、俗なる世界(ほとんど意味のわからない短い言葉)から聖なる世界(貴い言葉、秘密の言葉、仏の言葉)

に大転換する。宗旨を問わず、行き着いたところは同じところであったと言える、仏教の教えの大切なキーポイントの深いところの意味はどこにあるのか。

これは、一言で言いつつ、「人間の知恵の限界を知る」といつこと。人間は、悟りの世界(理想の世界)がどこにあるかも知りません、又悟りの世界(理想の世界)に入るのにはどの道を行けばよいかも知りません。なるほど、戒律を護る先賢の教えを学ぶ、などの道は説かれていますが、初心者にはそれで納得行くかも知れませんが、実は、私たち生きるものは必ず他の生物を殺して(食べて)生きています。「不殺生」という戒一つをとってみても守り通すことはできないのです。そして、行きつくところは、先ず、「自分の前に道がない」ことを知ることなのです。そして、悟りへの真実の扉は、人間は自分の力で開くことはできない、人間にできるのは、この扉の前でひたすら扉の方から開かれるのを待つことだけである。自分から、努力をして、学問や、哲学、教養を学んで自分の力で仏に出会うのではなく、自分には、仏のほうから、来て下さるのを待つことしかできない、これが御真言を唱えることの意味であり、四国遍路の修行も「ここにあります。」と説かれています。この文面からも日本人のものの考え方が良く理解できます。私たちは、「人生を

充実して遺憾なく生きるとは、どう生きるのか」といつことなのです。勿論、肉体的生命を保つことを離れるものでありません。肉体を軽くみるのは、むしろ間違っていますが、ただ本能のままに何の自覚もなく生きて、たとい百歳まで長生きしたとして、それで本当に人生を充実して生きたと言えるでしょうか。

今日の日本、これからの日本に課せられた命題ではないでしょうか。道元禪師が孔子の論語に「朝に道をきかば夕に死するも可なり」といつ、言葉を用いて、「たとい我々が長生きしたいと思つた所で、一度は死ななければならぬのである。どうせ死ぬなら、せめて今日一日だけでも、息のある間に仏の道をきき、それにもとずいた生活をして死のうと考えるべきである。それを明日の生活のことをアレコレと取越し苦労をして、真理を求めようとせず、行くべき道をも行わず、アクセクと毎日過しているのは、まさに気の毒なことである」と申しております。この仏の道在家の方々はどう体得し日常生活を實踐するかが課題であります。

客観的時間と主観的時間
この仏の道を体得する方法が先に畠田秀峰師が述べているように例えば四国八十八ヶ所徒歩巡拝で野宿を實踐されますと最初の三ヶ日間位は時計(客観的時間)を見る生活ですがその後は時計が必要でない生活なのです。すなわち、春夏秋冬のその時の季節、と太陽の日の出、夕日太陽の高さと体感時間(主観的時間)で一日一日の充実感を味わって満願に近づいてゆきます。

主観的時間ですが私たちが気持ち急いで車で発していますと赤信号に直面したとき、僅かの時間が非常に長く感じますね。あれが主観的時間なのです。

私たちが子供の時に聞いた話に浦島太郎の話があります。カメが子供に捕まえられていじめられているので、可哀想に思つて子供から引き離して海へ逃がしてやった。二、三日したらカメが迎えに来て、「あなたを竜宮に連れて行ってあげましょう。私の背にお乗り下さい」といつて、水の中へ入って行く。竜宮へ着くと乙姫様が非常に歓迎し、浦島はそこで何日か過ごした。しかし自分の家が恋しくなり、玉手箱をもらつて帰つてきた。ところが村へ帰つても、いつ「こつ様子がおかしい。第一知人がいない。何かさびしくなつて開けてはいけなさいといわれた玉手箱を開けたら、白い煙が出てきて、いっぺんに髪の毛が白くなつて年を取つた。このおとぎ話はどういう意味をいつているのか考えますと、仏教には多くのお経があつて色々なことが書かれていますが、人生五十年(今は七十年でしようか)といいますが人間の五十年は浄土の世界の天国に行きますと一日になり、また人間の一日は地獄へ行きますと五十年、と書かれているそうです。

なぜこのようなことが起こるかといいますと、人間は好きなことをしているとき、自分の心が楽しいときは、時間のたつのがわからない。反対に苦しいときは時間が長いといつこと。

よくよく考えますと私たちにはこの主観的な時間以外にはないといつこと。過去とか未来とか現在とかいつて、確かに過去があります。主観的時間に私の明日といつ明日があるかどうかわかりません。今、しかないのです。明日といつ明日になつても私にはやっぱり今なのです。

私たちの命は永遠なのです。この永遠といつことは結局現在を生かす生き方をいつのです。

大切な八つの心の働き
仏教では心の働きを八つに分類されます。これを八識(はつしき)といひます。まずものを見る働き、声や音を聞く働き、臭いを嗅ぐ働き、味を味わう働き、固いとかやわらかいとか暖かいとか寒いかとか痛いとか痒いとかを感じる働き、

これを一纏めにして眼耳鼻舌身の前五識と言ひます。これは絶対認識に近いもので、未だ価値判断にまで及ばない。その前五識と一緒に働いて好悪の価値判断につづくものを前五識の次に第六意識と言ひます。この第六意識は私たちが寝ている間は全休止しています。

が起きているときは勿論、寝ている時も、一瞬も休まず、あの河の流れのように途絶えることなく、あらゆる先験的なことも後天的な経験も、悉く記憶にとどめている心を阿頼耶識(あらいやしき)いい、第八番目に数えます。この阿頼耶識を眺めましてあなたも堅実な自己中心なるかのごとく思ひ、ここが我という觀念を持つて、永遠なる我れ、唯一絶対なる我れ、この世の中心なる我れ、あらゆるものを司りしきつてゆく我なりといつ錯覚ものにと、自分に強い執着を生じ、その執着ゆえに誤つた意味の自己の主体性に意固地にこだわり、自分といつものを一歩も譲らぬといつことになつて、自分の心にもひいては世の中を騒がせいささかも反省することを知らぬ、恐るべきはたらきをする心を第七番目の末那識(まなしき)といひます。

現在、子供から大人まで今までは考えられない数々の事件、事象が起こつていますが、この行いの原因が末那識のなせる業です。

阿頼耶識、これを潜在意識とも言ひますが、この意識に心を癒される真理が繰り返し繰り返し訓練がなされた場合、末那識が知能に係るなく取り巻く周囲の人々に心の癒しを与える。作家ダニエル・キイス著、アルジャーノンに花束の主人公の物語が語つています。

長い間、子育てや社会的に立派に勤め上げた痴呆症の多くの老人の中に巨悪な犯罪を聞いたことがない。

破壊的創造の時代到来に潜在意識の活用とかが、新しい創造とかに迷わされず、私たちは世の人々にお役に立つて各人の個性を大切に繰り返し繰り返し、訓練に取り込む大切さを四国八十八ヶ所巡拝や、座禅、瞑想を来る日も来る日も実践致しませんか。次号に続く

http://www.nnc.or.jp/~sekiho/ E-mail sekiho@nnc.or.jp

弘法大師の言葉

限りなき願い

虚空がなくなり
人々もなくなり
さとりもつきたならば
わたしの願いも
つぎるのであろう

『虚空盡き、衆生盡き、
涅槃盡きば、
わが願いも盡きなん』

弘法大師空海全集第六巻
性霊集

これは大師のご誓願です。

誓願、それは一つの決意表明であり、信仰と信念の披瀝です。

わたしはこれまで、次の方便に大師のご誓願を理解させて頂いています。

ある人が極楽見学に行った。家も景色も結構すぐめだが、ふしぎに誰もいない。これは近來罪つくる者多く極楽へ来手がないのだからと考えた。しかし、各宗の祖師方はおられるはずだと役人に聞くと大昔に一度みえたが結構すぎで長居は無用とだとして、みな地獄の衆生を救いに行つたがりだといふ。法蔵菩薩の四十八願、弘法大師の誓願かくて永遠につづく。

(平井 巽)

「どこでいう「わが願い」といふのは、仏に帰依する者が自分にかす課題であり行為のことである。他人はいざ知らず自分だけはそうしたい

といふついで悲願であり願いであります。

しかしそれは同時に「自分のために行つてくがそのまま他人のこともつながら、人々のために行つて自分自身の課題である」といふ悲願でもある点に注意しなければならぬ。

それは大師は、自利他利の道の実現といふ自身の強い理念持っているからです。

現実にも多くの人々がかかえ苦しんでいる課題と自分が追求すべき課題と切り離してはならないといふ考え方です。

現実には起っている様々な困難を自らの信仰的実践の対象として捉える。といふ事です。この大師のご誓願はそういう中から生まれてきた「わが願い」なのです。

何時の時代にも一心に仏の世界に帰依して行く人々の姿は美しい。そしてその誓願はわたしたちに深い感銘を与えずにおかない。私はこの大師の誓願にせつするたびに宮沢賢治の詩の一節を思い出す。

世界がぜんたい幸福にならないうちは
個人の幸福はあり得ない

われらは世界のまことの幸福を索(たづ)ねよう
求道すに道である。

世界に対する大いなる希望をまづ起こせ
強く正しく生活せよ

苦難をさげすみに直進せよ
なべての悩みをたきぎと燃やし
なべての心を心とせよ

東北岩手の寒村で若くして亡くなったこの詩人は法華經の信者であった。法華經をつつして仏に帰依せんといつた人だった。簡潔な表現だがその格調の高さは同時代の詩人の群をぬいていたといふ。

今、目の前にいる人々とそれを包む世界への限りなき慈悲を誓っている大師のご誓願。

それは私たちに、現実にも今、出会う様々な出来事、それは何一つ自分に関わらぬ者はないんだ、その中でたまたかえと私たちに呼びかけている。

不退転の志を説いている。

私たち一人ひとりの誓願がそれぞれの側からたてられ、それが一つの共同の課題として設定され推進されて行かねばならない今、この大師のご誓願はわれわれにとつて一つの大きな指針となるであろう。

『蜘蛛の糸』

芥川龍之介小説

お釈迦様は地獄の様子を御覧になりながら、地獄で苦しんでいる泥棒が過去に蜘蛛(くも)を助けた事があるのを御思い出しになりました。そうしてそれだけの善い事をした報いは、出来るならこの男を地獄から救い出してやるうとお考えになりました。お釈迦様は極楽の蜘蛛糸をスーッと天国から下ろされました。泥棒がひつよと見上げると、上から何かひもが下りて来る。これはありがたいといふので、それにぶらさがったわけだ。ひもを上がることぐらゐ泥棒だからお手のもので、どんどん登りだした。登つて途中まで来て、ひつよと下を見たら、次から次へと皆登つて来るではないか。そんなに登つて来たらひもが切れてしまふ。これはわしがお釈迦様から頂いたものだ。お前らは下りろ」と言つけれども、命にかかわるから、誰ひとりとして素直に下りる人などいません。それでその泥棒は、下から登つてくる人の頭をパーンと足で蹴つたわけだ。するとその調子に、自分の上のほうからひもがブツ切り切れてしまひ、自分も下から来る人も、皆もろとも、もつ一度地獄の血の海へ舞い戻つた。

このことから子供の教育には自分のことだけ考えてはいけませんと教えてあり、この教えは永遠なのです。この泥棒は下を見た、即ち過去を見たのです。ね、上を見る、明日をのみ見ていたら天国についてたでしょう。確かに過去も未来もありませんが、主観的な時間で考えますと私の明日はあるかどうか分からないのです。結局永遠といふことは現在を生かすといふことです。現実しかない。明日になったら今なのです。



有限会社 ミヤタケ

代表取締役 宮下隆博

〒640-8329
和歌山市田中町4-119
TEL(073)422-2327 FAX(073)436-5598



人に優しい音声発生装置!

有限会社 日本メディテックス

代表取締役 山口昭昌

〒641-0054
和歌山市塩屋5丁目5番43号
TEL(073)446-2009 FAX(073)446-3696

